



1911 モデルT ラナバウト(しゅとめ用シート)「at」



製造情報

製造商	フォードモーターカンパニー /フィールドボディカンパニー
組付工場	ミシガン州のハイランドパークのフォードハイランド パーク工場、(子会社工場)
モデル生産量	未知の
総生産量	34,858 (完成車)
馬力	22
重量	1,200ポンド/ 544キログラム
当時売価	\$780 (USD)

イノベーション(ポイントのみ)

ルーバー無しのアルミ製ボンネット

新しいマグネットにより広がったエンジンパン

1911年末 エンジンの点検扉につけられた6つのボルト

以前はオプションだったトッパス付きのオープン車

中期、後部アクセルの先が次第に細くなる

価格は1910年から220ドル安くなる

社内の文章では「3人乗りラナバウト」と言われてきた有名な「Mother-in-law seat(しゅとめ用シート)」というボディスタイルは1909年から1910年までピケット通りの工場で生産されていました。(後部に1人分の脱着可能なバケットシートが付くが、幌もかからず前席とは完全に隔離されるので、親不孝者は「Mother-in-law seat(しゅうとめ用シート)」と呼ぶ。)また、1911年までに全ての木製の車のボディは金属で覆われていました。1911年に作られた車はすべて、ハイランドパークの工場でウォルター・フランダース、P.E.マーティン、チャールズ・ソレンセンらによって作られた「ステーションアセンブリ」という技術を使って組み立てられました。1913年になると、組み立てラインによる車の製造はもう適当な方法ではなくなっていました。この車にはアクセサリーワイヤーホイール(木製スポークホイールが標準装備)と「ロッキーマウンテンブレーキ」が装備されています。モデルTはまだ製造されて2年ととても若い車でしたが、アフターマーケットアクセサリーでの取引はすでに巨大なビジネスに発展していて、年々それは拡大していきました。